

# SeaBOSの全体像

Seafood Business for Ocean Stewardship (SeaBOS) は、世界の水産物生産量の10%以上を占める、世界有数の大手水産会社6社による協働イニシアティブです。分野横断的な専門性を有する大学・研究機関の第一線の科学者と連携し、SeaBOSのメンバー企業は、10のコミットメントに基づく主要なインパクト領域において、世界の水産業が直面する変革的なリスクと機会を探究しています。これらの企業は、海洋生態系における「キーストーン・アクター」として位置づけられています。

6社

従業員数:  
30,000人以上

水産物の  
国際貿易の  
10%以上

年間売上高:  
約26億米ドル

事業拠点国数:  
約100か国

取扱魚種数:  
450種以上

## SeaBOSのメンバー企業



## 科学的連携機関



# エグゼクティブ・サマリー: SeaBOSの実績および成果 (2024-2025年)



## IUU漁業および現代奴隷制

### 目標

メンバー企業のサプライチェーンにおけるIUU漁業/現代奴隷制 (IUU/MS) の排除



## 生物多様性と生態系

健全で強靱な生物多様性と生態系の実現に向けて



## 抗菌剤耐性

重要抗菌剤の使用削減および段階的廃止



## 気候レジリエンス

海洋生態系および水産業を守るための気候レジリエンスの構築



## 海洋プラスチックの削減

プラスチック汚染の低減

実績	<b>6/6</b> 社がIUU/MS 調達調査を完了	<b>6/6</b> 社が生物多様性に関する情報開示を完了	CIA使用量: <b>11.9%</b> 減少*	スコープ1および2の温室効果ガス排出量(絶対量): <b>11.8%</b> 削減**	使い捨てプラスチック: <b>700</b> トン超削減
評価指標	サプライチェーンにおけるIUU/MSリスクの評価	戦略的な生物多様性管理	使用有効成分	温室効果ガス排出量の削減	プラスチック使用量の削減または回避
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>SeaBOSメンバー企業を対象に調達調査を実施し、調達パターンの把握し、違法・無報告・無規制 (IUU) 漁業および現代奴隷制に関するリスク評価に資する情報を収集。</li> <li>西アフリカ沿岸地域で事業を展開するすべてのSeaBOS企業が、グローバルレベルおよび該当する場合には国レベルにおいて、人権デューデリジェンスに関する研修およびギャップ分析を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>TNFDに基づく生物多様性情報開示フレームワークの策定。</li> <li>生物多様性に関するパフォーマンスの情報公開 (付録参照)。</li> <li>飼料サプライチェーン全体における森林および生物多様性の保全。</li> <li>各社によるTNFDレポートの公表。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SeaBOS抗菌剤管理ロードマップおよび行動規範の策定。</li> <li>抗菌剤使用量削減を目的としたワクチン技術および陸上エビ養殖の推進。</li> <li>タイのエビ養殖において使用可能で、他地域の他の養殖種にも適用可能な抗菌剤耐性遺伝子検査プロトコルの開発。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>製品流通における低炭素輸送手段へ転換。</li> <li>船舶の電動化およびハイブリッド化。</li> <li>太陽光発電設備およびメタン回収発電システムの導入。</li> <li>地球温暖化係数 (GWP) の低い代替冷媒への転換。</li> <li>すべてのSeaBOSメンバー企業によるスコープ3排出量の測定。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>再生プラスチックを使用したバルク包装および飼料袋の再設計。</li> <li>代替素材および漏出防止コーティングを用いたフロート (浮子) への置換。</li> </ul>
成果	主要なIUU/MSリスクの特定およびそれに対応するリスク低減プロセスを支援するための意識向上と資料へのアクセス向上を図った。	自然関連財務情報開示タスクフォース (TNFD) フレームワークを用いた、重要な生物多様性課題の特定および開示。	育成養殖場における全抗菌剤および重要抗菌剤 (CIA) の合計使用量の削減。	温室効果ガス排出量について、絶対量および原単位ベースの双方で削減を達成。	プラスチック使用量、使い捨てプラスチックの回避量、およびプラスチック流出量に関して、定量的に測定可能な削減を達成しました。

\* 育成養殖場および飼料生産者の合算した結果。HPCIAについては、両者において使用量が増加しているため、本結果には含まれていません。

\*\* 2022年以降